

水堂農会文書概要

- 1: 文書群番号 099029
- 2: 文書群名 水堂農会文書
- 3: 出所
- 4: 家業・役職等 -
- 5: 地名 兵庫県川辺郡水堂村／川辺郡立花村水堂／尼崎市水堂／尼崎市水堂町
- 6: 行政区分 兵庫県第10区／三反田組戸長役場／立花村／尼崎市
- 7: 歴史
水堂はJR立花駅の西方に位置する。昭和8年（1933）からの橘土地区画整理事業により立花駅の南北に市街地が造成され、水堂地区東部も宅地化された。明治8年（1875）当時の水田面積は91町8反18歩であったが、昭和26年の村耕作登録分は約13町、農協の株持ち戸数は戦後すぐでは30戸程度である。
立花村農会は明治33年に農会法に基づき設立されたが、昭和19年に他の農事諸団体とともに尼崎市農業会に統合された。本文書群によれば、昭和20～30年の農業関係団体として、「水堂栗田納税貯蓄組合」と「水堂部落農業会」が組織されていた。
- 8: 伝来
平成12年（2000）、農業史聞き取り調査の際に永田忠蔵氏保管史料の一部を借用。会長宅では他に二箱分の農会史料を保管中。平成21年6月に整理・目録作成を完了、7月に寄託を受けた。
- 9: 史料入手先 永田忠蔵氏（水堂農会長）
- 10: 点数 5点（目録件数5件）
- 11: 年代 明治8年（1875）～昭和37年（1962）
- 12: 構造と内容
本文書群は、昭和20～30年代における水堂の①産米供出及び水稻作付関係、②税金関係、③供出関係の書類綴り、④耕作台帳など土地・税金・農業関係史料が中心をなしている。
明治8年（1875）の「水堂村字一筆限図」は地租改正時の史料であるが、田畑の等級や所有者名の記載はない。当絵図は「改正反別取調帳」作成のための予備調査的なものであろう。絵図中には道・水路も書き込まれており、明治初期の水堂村の状況が詳細に判明する。
- 13: 関連史料 -
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 近藤浩二